

視聴覚教育

NO 145

発行日 63. 9. 1

発行 岡崎市AVL

編集

広報委員会

原点から将来へ

—子どもの心に感動をあたえる映像を求めて—

現職教育視聴覚部副部長 杉崎 利兵衛

視聴覚機器は、日進月歩の勢いで開発され、最近のパソコンコンピュータやワードプロセッサなどは、目を見張るものばかりであり、その操作方法を聞いただけで尻込みしてしまう人があると聞いている。

こんな時こそ、視聴覚教育の原点を見直す必要があるのではないか。機会あって『ぐんまの視聴覚教育』四十年の歩みを読んで、視聴覚教育の原点と発展を知ることができた。たとえば、第三章『視聴覚教育の今昔』では現在の視聴覚メディアの多様化を指摘し、有効に視聴覚機器を活用し、子どもの心をゆさぶり、学習効果をあげるためには、ハードの規格統一とソフトの互換性を考えることが課題であると指摘している。

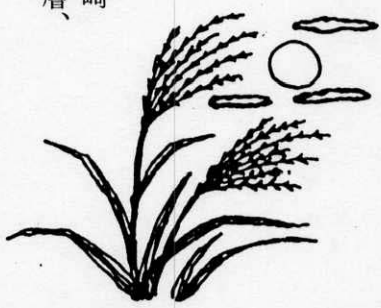
今更、言うまでもないが、視聴覚教育は黒板とチョークと教科書による文字・活字教育から脱皮しようとして

生まれたものである。白黒の十六ミリ映画を授業の中にとり入れた当初は、子どもはもちろん教師も、動く映像を見て、深く感動したものである。また、自作のスライドやフィルムを映写し、子どもと共に喜んでいる姿をよく見かけた。それ以後、急速に開発された視聴覚機器は白黒からカラー化、軽量コンパクト化、その上、操作も簡単になり、各家庭へも入り込んできた。その影響で、最近では、あまりにも多くの情報が入り過ぎ、情報を受けなくても感動することが少くなってきたと言われている。

この現状を打開するには、教師は、子どもの心をゆさぶり教育方法の手段として、教育機器を使うのだ、という原点を今一度、頭に置きなおす必要があるのではないかと思う。

それには、各学校にあるオーソドックスな視聴覚機器を再評価し、子どもたちが気軽に活用すると同時に、今後、益々、教育現場での存在価値の大きくなっていくコンピュータについても、入門コースから活用コースに発展するように、パソコン委員会の活動を充実させ、パソコンの活用法等の研究を進めていくべきだと思う。

また、パソコンについての研究会や各学校間の資料交換会を企画し、ソフトの開発のノウハウについての論議を交わし、岡崎のコンピュータ教育をより一層、着実に進めたいものである。



VTR実技講習会に参加して(アンケートより)

八月一、二日の二日間、VTR実技講習会が連尺小学校で開催された。暑い二日間であったが、受講生の方々は額に汗しながらも撮影、編集に真剣に取り組まれた。社会教育班へ参加された受講生の方から感想を聞いてみた。

参加者の声

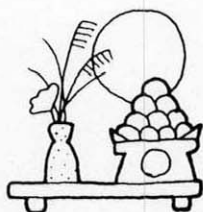
★ビデオについての知識がまるでなく、操作の手順を覚えてもらっても、何を撮ったらいいか分かりませんでした。自分が写した所を後から見ると、ピントが甘かったり、動物の頭や尾が切れていたりして、さんざんでした。

★主婦業を常としている私にとって、この二日間は変化があり、楽しい限りでした。練習を重ね、子供の成長をカメラに撮ってやりたいと思います。

★機械の操作が講習会の重点だと思いましたが、一本の作品を作るということで、コンテ作り、撮影、編集と、一つ上の技術講習でした。最初はとまどいましたが、大変楽しい二日間でした。

★カメラ越しに見た景色が、普段と違って見えて楽しかったです。

★全然知らなかったビデオのことが少し分かり、これから積極的に写したいと思います。初めて会った人達と仲良く、楽しくでき、よい思い出になりました。



ライフラリーだより

自作TP作品

募集について

市内の小中学校に勤務する先生で、自作した楽しいアイデア作品、机の片隅に眠る作品など、自作による数多くのTP教材を募集しています。(全員に参加賞)

■規定

- (1) 一時間または、一単元用で、教科領域は自由
- (2) 一人一作品で、TP枚数は制限なし
- (3) 未発表の創作で、作成方法は自由

■その他

作品は、厚手の封筒に入れ応募個票の一枚を表に貼付、TPの枚数を明記して下さい。またTP一枚ごとに校名・氏名を記入して応募個票十枚とともに同封してください。

■応募先

岡崎市視聴覚ライフラリー ☎25-3000
10月15日(土)必着/太陽の城一階

お知らせ

■2学期の教材配達サービスは、9月6日(火)から開始します。

